



長野県神社庁報 第104号

平成19年1月1日 発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
(長野市箱清水1-6-1 電話026-232-3355 FAX026-233-2720)

慶祝 秋篠宮悠仁親王殿下御誕生



お印：高野槇

写真協力：共同通信社

お健やかなご成長をお祈り申し上げます

目 次

目次、日誌抄	2
日誌抄	3
年頭の辞、年頭の挨拶	4
第42回全国神社総代会大会、 敬神婦人連合会総会、辞令	5
式年遷宮をする理由	6
御造宮フォトニュース	8
新任神職の横顔	9
H17年度歳入歳出決算書、 災害救助慰藉特別会計決算書	10
神宮大麻頒布表彰者、寄付者顕彰	11
伊勢神宮式年遷宮奉賛会 長野県本部設立 「日本は御皇室によって護られてきた」 加瀬英明 先生	12
謹賀新年	20
御木曳行事ご奉仕2日間の旅	24

日誌抄

(平成十八年七月、十二月)

*教：教化部の略
*大麻：神宮大麻の略

七 月

- 四日 理事会・支部長会
- 五、六日 教養研修会
- 十二日 地方祭式指導者研究会
- 十五、十七日 雅楽研修会
- 二十日 教・青少年対策推進委員会
- 二十六日 祭祀舞研修会
- 二十七日 階位証並任命辞令伝達式
- 二十八日 第六十九回定例協議会



三千、三十一日
初任神職研修会(前期)

八 月

二、三日 靖國神社正式参拝と
TDLの旅



- 二、四日 浦安の舞研修会
- 三日 神政連県本部役員会
- 人事諮問委員会
- 二十一日 教・祭祀委員会
- 三十日 教・調査委員会
- 三十一日 教・教化委員会

九 月

- 四日 理事会
- 理事支部長合同会議
- 五日 任命辞令伝達式
- 五、六日 初任神職研修会(後期)
- 六日 秋篠宮悠仁親王殿下御誕生

十二日

神社庁設立六十周年神殿例祭



十二日

秋篠宮悠仁親王殿下
御誕生 奉祝パレード





十六日 大麻モデル支部
対策担当委員会議 於神宮
十七日 大麻旗頒布始祭
並秋季推進会議 於神宮
十八日 神社庁長会 於神宮
大麻旗頒布向上推進委員会
モデル支部頒布推進会議

十月

三日 神宮式年遷宮奉賛会
県本部設立準備委員会
教・役員会
神社本庁臨時評議員会
於本庁
五日 敬神婦人連合会役員会
任命辞令伝達式
六日 庁報編集委員会



十二日 神宮大麻旗頒布始祭景察

十八、十九日 県内紅葉会
当番戸隠神社
二十三日 教・調査委員会
二十五、二十六日 東海五県庁長参事会
当番愛知県
二十七日 神社庁設立六十周年記念
第六十一回連合大会
三十一日 理事支部長合同会議



十三日 階位證伝達式
庁報編集委員会
敬神婦人連合会総会
於穂高神社

十四日



九日 神宮式年遷宮奉賛会県本部
設立総会
於サンパルテ山王

十一月



二十七、二十八日 東海五県紅葉会
当番愛知県
三十日 教・祭祀委員会
教・青少年対策推進委員会
不活動神社対策に関する
連絡会議

十二月

二日 神宮大麻旗頒布研修会
長野支部管内・嵐山神社
三、四日 神宮新殿感謝参拝旅行
教・調査委員会
五日 正副庁長会
六日 神職身分證並びに
任命辞令伝達式



十二日 神宮大麻旗頒布研修会
(長野支部管内・白鳥神社)

十四日 理事支部長合同会議



年頭のご挨拶

長野県神社庁 庁長 齋藤 吉仁



献奉壽春。大神の御前に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。ますと共に、氏神様の御降旨と御家連の御多幸を祈念致します。

皇室秋篠宮家におかれましては昨年九月六日悠仁親王殿下御誕生、おおいなる祝福に包まれ、十一月十四日には「宮中三殿に謁するの儀」の後、両殿下にごあいさつなされた田、誠に麗しく喜ばしい限りでご座居ます。

本宗と仰ぐ伊勢神宮におきましては、昨年四月二十一日に財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会が発足、それを受けて当県では、十一月九日に、第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉賛会長野県本部が発足、続いて十七支部も奉賛会を年度末には設立発足する予定です。

昨年は、神社本庁設立六十周年の佳節の年であり、五月二十三日、秋篠宮両殿下の御台臨を仰ぎ、池田厚子総裁、久邇邦昭統理の下、有史以来未曾有の



年頭のご挨拶

長野県神社総代会 会長 行田 増次郎



新年あけまして おめでと〜ございます。健やかにして清々しく新たな歳をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

内外とも多難なすぎる年ではありましたが、国民等しく待ち望んだ秋篠宮悠仁親王殿下のご誕生は、皇室の御慶事であり国民挙げて心よりお祝い申し上げ殿下の御健やかな御成長そして御皇室のご隆盛を心祈念申し上げます。

長野県神社庁設立六十周年記念事業に対する、県総代会始まって以来の協

国難に思いを致した大会でした。

当県では、設立六十周年記念事業として、神職総代様方より協賛を戴き、庁舎改築工事、皇居勤労奉仕事業等成功裡に終了致しました。

なお、昨年十月二十七日には、県神社庁設立六十周年記念式典が、第六十一回長野県神社庁・長野県神社総代会連合大会に合せ、盛大に開催されました。以上足早に昨年を顧みましたが、御皇室の御慶事と神宮の奉賛会設立、周年事業等大変充実した年であり、その都度別けても神社庁役員総代様方のお力と御指導御鞭撻のもと、県下の神社関係者のご協力も戴き、諸行事の完遂を見ました事は誠に有り難く衷心より厚く御礼申し上げます。

既に始まっており、伊勢神宮奉賛活動も、国内経済がイザナギ景気を越すと言われる昨今ではありますが、「デフレ」の影響等、まだまだ厳しい状況が続いており、決して樂觀出来る所ではありません。我々神職総代を始め全国民の「心のふる里」である伊勢神宮の御遷宮であります。是非とも初期の目的を達成致したく存じますので、倍旧の御理解を賜り、それぞれのお立場で御協力下さいます事、伏してお願ひ申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

賛活動につきましては、総代各位の斯界に寄せる認識のたかさに感銘し、感謝と御礼を申し上げます。

平成二十五年伊勢神宮式年遷宮の諸行事、諸事業につきましても県総代会挙げて国家的な祭事が無事進行出来ますよう格別のご理解、ご協力、ご努力をお願い申し上げます。

私たちは神の恵みに感謝し祈願する崇高な神道に生きる者として、現今の「命の大切さ」「感謝、報恩、尊敬」等々の「日本の心」の忘却を嘆かざるを得ないところであります。

今年には神様のお恵みを戴き平和で平穏な幸多い年となりますよう皆様と共に念じつつ年頭のご挨拶といたします。

第四十二回全国神社総代会大会

全国神社総代会の第四十二回大会が、九月十日、福島県郡山市の郡山開成学園建学記念講堂で開催され、大会には全国各地から総代など約千八百人が参加、県内よりは行田会長をはじめ八名が出席した。大会式典前には、清興として「郡山女子大学附属高等学校マーチングバンド」「開成山大神宮和太鼓」が披露され、その後、神社本庁教化講師の靈山神社庄立正之宮司が「君主制こそ新しい―世界の至宝・日本の皇室」と題して講演が行われた。



大会式典は、福島県神社総代会連合会長の開会の辞で始まり、満場の拍手で親王殿下御誕生を奉祝した。その後、全国神社総代会会長式辞、神社功労者表彰、来賓祝辞、受賞者謝辞、平成十八年度事業計画報告、全国神社総代会事務局諸活動報告、大会宣言が採決され、次期大会開催地山梨県総代会会長挨拶、聖壽万歳の奉唱で閉会した。

長野県敬神婦人連合会総会

去る十一月十四日、錦秋深い穂高の峰々を見晴らす安曇の里で平成十八年度「長野県敬神婦人連合会総会」が会員一三五名のもと中信地区の当番により開催された。

県内持ち回りの形式にて開催する事となった総会も三年目を迎え、本年は南安曇支会を当番として、木曾、大北、松塩筑の各支部準備員により総会場の諸準備が穂高神社参集殿にてより進められ、午後一時よりの第一部総会では平成十七年度決算及び平成十九年度予算案が満場一致にて可決した他、来年の任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に水野やし路氏が就任する等の役員会原案を承認する形で可決した。

尚、来年度の総会については南信地区の当番となるが開催拠点については上伊那支部管内で行う予定である。

第二部は「靖国の声に耳を澄ませて」と題してジャーナリストの打越和子氏による記念講演が行われた。講演は同氏が平成十四年に発刊された同名の著書の内容に沿って行われ、深い御英霊の御心に涙しつつも、現代社会を重ね合わせ、真の平和の意味をあらためて考える意義深いひとときとなった。



辞令

平成18年6月

昇級・神職身分二級

神社名	職名	氏名	月日	支部名
熊野皇大神社	宮司	水澤 光男	十一・十五	北佐久
三藏神社	宮司	平沢 千代一	十一・十五	飯伊
酒玉神社	宮司	宇治橋 克彦	十一・十五	松塩筑
小内神社	宮司	竹内 忠男	十一・十五	更埴
安國神社	宮司	片山 昭	十一・十五	上高井
健甕名方富命彦神別神社	宮司	長坂 真雄	十一・十五	下高井
名譽宮司称号授与	宮司	高橋 勳	十一・十五	飯水
熊野皇大神社	名譽宮司	曾根 民郎	十一・一	北佐久

任命

神社名	本兼職名	氏名	月日	支部名
上田大神宮	兼宮司	今井 正昭	七・十五	上小
澤山神社	兼宮司	忠平 隆三	七・十五	飯伊
諏訪神社	兼宮司	須澤 清昭	八・三十一	南安曇
神明宮	兼宮司	曾根 徳隆	九・三	北佐久
八龍神社(他十四社)	兼宮司	茅野由加里	九・十五	諏訪
出早謙小蘇神社(他一社)	兼権禰宜	五十嵐 輝	九・二十	上小
大屋神社	兼権禰宜	内堀ゆかり	十一・二十	松塩筑
長野縣護國神社	本宮代	大和田賢一	十一・二二	松塩筑

昇任

豊宮神社	兼宮司	茅野由加里	九・十四	諏訪
八幡神社(他一社)	兼宮司	平林 秀文	十二・五	大北

新任

子權禰神社	本禰宜	清住 邦廣	七・十	上小
-------	-----	-------	-----	----

本務替

飯原神社(諏訪大社より)	本宮司	奥谷 一文	八・十一	木曾
諏訪神社(有明山神社より)	本宮司	須澤 清昭	九・一	南安曇
豊宮神社(我妻社四社より)	本宮司	茅野由加里	九・十五	諏訪
熊野皇大神社(長倉神社より)	本禰宜	水澤 貴文	九・二十	北佐久
武井神社(長倉縣護國神社より)	本宮司	齋藤 吉仁	十一・二二	長野

辞職

城山神社	兼宮司	野黒 重央	六・四	上水内
諏訪大社	本権宮司	奥谷 一文	八・十	諏訪
八幡神社(他一社)	兼宮司	平林 成元	十二・四	大北

退職

生島足島神社	本権禰宜	田名部匡了	七・三十一	上小
諏訪神社	本宮司	依田 三郎	八・三十	南安曇
鹽竈神社	本権禰宜	上條 守	九・十	松塩筑

帰幽

慎んで御霊の安らかなることをお祈りいたします	身分	氏名	帰幽日	支部名	
葦原神社	宮司	正階一級上	下平	勇十・四	飯伊

